発 流行人 しわけにん

# 小林米幸氏

## 積極的に外国人を診る医院設け 医療制度解説書6ヵ国語で出版

【こばやし・よねゆき】1949年北海道生まれ。43歳。74年慶応義塾大学医学部卒業後、同外科学教室入室。その後栃木県佐野厚生病院外科医長、神奈川県大和市立病院外科医長を経て90年、大和市に外国人患者も受け入れる小林国際クリニックを開業。AMDA（アジア医師連絡協議会）の国際医療情報センター所長でもある。

# 草の根国際化に 医療現場で尽力

神奈川県大和市にある小林国際クリニックには、一カ月に約二百人の外国人患者が訪れる。カンボジア、タイなどの東南アジアの人たちや、アルゼンチン、ペルーなどの日系人たちで、これは同クリニックの全体の患者数の約二割を占めるという。

小林は八二年から大和市立病院に外科医として勤務し、インドシナ難民大和定住促進センターに入所していた難民の医療に携わり、「外国人患者と数多く接した」。

□ □ □

「市立病院では在日外国人患者の対応にはやはり限度がある。それなら自分で開業しよう。カンボジア人の看護婦を雇い、カンボジア語、中国語、ベトナム語など八カ国語で診療が受けられるようにした」。小児科医である妻とともに三年前の九〇年に同クリニック開院にこぎつけた。外国人の診療を前提に開業し、日本人にも理解してもらうため、あえて医院の名前に国際を付け加えた。外国人患者を積極的に受け入れる数少ない医院というわけだ。

外国人患者を診てきた経験から、「医者と患者双方の手助けになれば……」と、小林は今年初め、二冊の本を相次いで出版した。在日外国人向けに、健康保険、生活保護法など日本の医療・福祉制度を、日本語のほか英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の五カ国語で解説した「日本の医療・福祉制度ガイド」（中山書店刊、定価三千円）。どうしたら適正で安い費用の医療を受けられるかわかりやすく書かれている。翻訳には、自ら所長を務める在日外国人の医療情報の提供、電話相談をしているボランティア団体、AMDA国際医療情報センターの仲間の協力を得た。

医師に対しては、風俗・習慣の違いから来る診察時のトラブル、言葉の問題、高額医療費未払いなどを具体的にアドバイスする「外国人患者診察ガイドブック」（ミクス刊、定価二千円）。

「診療して困っている在日外国人からおカネをとらないのは一見美談だが、好意だけでは限度がある」と安直なボランティア意識を戒め、「外国人の自助努力を促すことが先決だ」と主張する小林。できる範囲で無理なく行うことが長続きする秘けつという。

□ □ □

在日外国人は不法滞在を含めると三百万人を超えるといわれている。外国人診療の問題は医師、病院にとって避けられない問題で、今後ますます深刻化するのが確実だ。

「それなのに、外国人の患者を受け入れる環境はまだまだ整っていない。医療における国際化とは、外国人も日本人も同様に診療できる施設を地域に作ることだと思う」

「これからも地域の医療現場から、地に足の着いたやり方で外国人医療の問題に携わりたい」。気負いがないからこそ、この問題に取り組む小林の真剣さがわかろうというものだ。

＝敬称略

（立）

## でーたボックス

### 小物・雑貨店持ちたい

「女性が持ちたいと思う店や会社」上位3（複数回答）

| | |
|---|---|
| ①小物・雑貨の店 | 124票 |
| ②喫茶店 | 102票 |
| ③フラワーショップ | 77票 |

（住友生命のアンテナショップLAVIE青山の調査から。